

宍戸璣関係文書

書翰の部

・書翰の部

○ 一、広島応接関係書翰 I

- 1 慶応元年閏五月一四日（赤川又太郎宛 中村誠一・藤田与次衛門・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰）宍戸御名代広島表へ派遣 貴殿一同同行ノ沙汰書送付 委細小田村ヨリ聴取アレ 佐伯太郎衛門 松村玄仲
- 2 慶応元年六月七日（山県半蔵宛 広沢藤右衛門・前原彦兵衛書翰）馬関応接書返却乞ウ
- 3 慶応元年一〇月五日（宍戸宛 林良輔・杉孫七郎・木梨彦右衛門書翰）出発祝
- 4 慶応元年一〇月九日（宍戸備後助宛 広沢藤右衛門・松原音三書翰）当駅着到敬賀 芸使モ昨夜着 深町三郎右衛門 植田乙次郎 浪花辺ノウワサ 我方所志貫徹センノミ
- 5 慶応元年一二月一日（広沢・松原ト宍戸往復書翰（断翰））〔往キ 宍戸ヨリ〕兩人出頭不賛成 芸藩士ヨリノ返答ニテハ監察意中不明熟慮ヲ要スベシ〔返シ 広沢ヨリ〕度々ノ病氣不出席デハ却テ拙策ニ非ズヤ 植田・寺尾尽力ノ手前モアリ出席ノ方ヨロシカラズヤ
- 6 慶応元年一二月一三日（宍戸備後助宛 杉孫七郎・柏村数馬・林良輔書翰）木梨面話 国許事情承知アラン 前書御申越ノ件同意 隊士差遣ノ際ハ御申含メアルベシ 井原病氣 単身大任ノ貫徹ニ期待ス
- 7 慶応元年一一（カ）月二三日（宍戸備後助宛 小田村素太郎・赤川又太郎書翰）芸藩ヨリ通達組頭一人貴寓へ差越サルルニ付面会アリタシト 只今桂ト対酌中ナリ
- 8 慶応元年一二月一日（小田村宛 広沢書翰）寺尾来ル 今朝ノ請書出来テオレバ渡シタシ
- 9 慶応元年一二月二日（宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰）芸藩宛書状写并植田・寺尾宛書状写拝借 留守中寺尾来訪 大津来訪只今帰ル 幕達書木梨へ廻付サレタシ
- 10 慶応元年一二月三日（宍戸宛 広沢・松原書翰）諸隊滞陣ノ存意書加エラレタシ 木太夫答書ト一同ニ差出方好都合ナラン
- 11 慶応元年一二月四日（宍戸・木梨書翰草稿）国泰寺面接隊中ヨリノ書面伝達（幕吏へノ書翰草稿）
- 12 慶応元年一二月五日（宍戸ト木梨往復書翰）〔往キ 宍戸〕小田村ヨリノ書面転送通知〔返シ 木梨〕同返事ニ添工近況
- 13 慶応元年一二月六日（宍戸宛 松原・広沢書翰）木梨・諸隊書面了承 植田・寺尾へ渡シノ文面モ結構 木梨答書モ別紙書加工分ヨリコノ方ヨロシカラシ
- 14 慶応元年一二月六日（宍戸宛 広沢・松原書翰）寺尾来ル 仰越シノ趣旨ニヨリ国情切迫ノ次第ヲ説明 納得ユキシ模様
- 15 慶応元年一二月六日（小田村素太郎宛 宍戸備後助書翰）奉勅始未受取り 借用別紙返却 付、幕監宛提出ノ達書 草稿一二月一日付
- 16 慶応元年一二月六日（宍戸備後助・木梨彦右衛門宛 杉孫七郎書翰）大津帰藩芸地事情了承 集義隊ト荻野隊合併 徳山配備 幕吏帰阪御退隠削地ノ拳ニ出ルナラン 筑前俗論沸騰ニテ二十余人就刑ノ由 平田大江 付、藩内近況一通
- 17 慶応元年一二月七日（宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰）寺尾来訪昨日ノ結果判明 木梨答書ハ切紙通り書キ加工提出 河瀬等ノ書面ハ不明 答書類監察ノ思惑アランモ一書ニテモ多キ方良カルベシ
- 18 慶応元年一二月七日（宍戸宛 木梨彦右衛門書翰）此後ノ模様ニテハ芸侯周旋ヲ必要トセン 野村帯刀ニ別紙ノ文句ニテ任カセテハ如何
- 19 慶応元年一二月七日（広沢・松原ト宍戸往復書翰）〔往キ 宍戸ヨリ〕河瀬等三人来リ委細承知 自判書ソノ他提出ニツキ如何ノ模様ナリヤ〔返シ 広沢ヨリ〕書面ニ通永田権介渡シ 削リ難キ文言口頭ニテ説明 自判書ハ監察ノ披見ニ入レテオラズ明朝ニハ報知アラン
- 20 慶応元年一二月八日（宍戸備後助・木梨彦右衛門宛 広沢藤右衛門・松原音三書翰）立野一郎 寺尾ヲ経テ永井へ書面差出シ ソノ回答寺尾へアリ 木梨答書・諸隊書面ソノマ

マ受取り 自判書ハ疑義アル由 字句ノ変更位ナレバ書キ直シヤリテハ如何 永井登坂説ハ
虚伝 幕議決定如何アラン

- 21 年 九月二十一日 (宍戸宛 広沢藤右衛門書翰) 登坂論甚心痛 桂只今馬関ヨリ帰山 今日幕府ト御手切ナド相止度

○ 二、 広島応接関係書翰 II

- 1 慶応元年一二月八日 (広沢・松原ト宍戸往復書翰) [往キ 宍戸] 文面前後ハ兎モ角三監察間届ケニ相違ナケレバ調替工木梨モ同意 寺尾宛永井書翰貰イオキタシ [返シ 松原] 自判書調替工明早朝マデ赤川へ依頼 出来次第寺尾書状才返シアリタシ 永井書状留置クコト困難ナラン ソノ写シハステニ控済ミ
- 2 慶応元年一二月八日 (宍戸ト広沢・松原往復書翰) [往キ 宍戸] 永田権助書面受取りソノ返事ナキヤ 監察等ノ動静如何 [返シ 広沢] 永田権助今朝来ル 昨日ノ書類寺尾ヨリ差出セシ筈 ソノ回答今日中ニアル筈ナレド未ダナシ 故ニ手紙ヲ送レリ 永井今朝登坂ノウワサ 寺尾来訪セバ実否判明セン
- 3 慶応元年一二月八日 (宍戸ト木梨往復書翰) [往キ 宍戸] 別紙三通広沢ヨリ届ク広沢意見ノ通りデヨロシケレバ明早朝調替工申スベシ [返シ 木梨] 先方ノ立場モアリ広沢意見通り調替工ヨロシカラシ
- 4 慶応元年一二月九日 (宍戸宛 広沢書翰) 自判書木梨ヨリ受取り 寺尾来訪待機書面ダケナリトモ終結イタシオキタシ 永井書翰返却ノコト 寺尾へ所望ノ談判困難ナラン
- 5 慶応元年一二月九日 (宍戸備後助宛 国重徳次郎・赤川又太郎・小田村素太郎書翰) 自判書監察気附ノ通り書キ替工提出
- 6 慶応元年一二月九日 (宍戸ト木梨往復書翰) [往キ 宍戸] 調替工自判書転達 [返シ 木梨] 同受取り
- 7 慶応元年一二月一〇日 (宍戸宛 広沢書翰) 応接書二冊ト御用状受取 自判書監察へ提出次第河瀬等引取りノ決議ニツキ飛脚明朝ニ返ス予定 手控ノ二冊山口へ届ケ置クベシ 才手許ノ手控并ニ幕監達書ハ事落着マデ御入用ナラン 木梨草按然ルベカラズ ステニ応接一件落着ノハズナレバ朝幕共御氷解ノコトト思イ決メ モシ意外ノオ沙汰ナレバ拳藩直訴スベシ 尽スベキハ尽シコノ上ハ素知ラヌ顔ニテ滞在アルベシ
- 8 慶応元年一二月一〇日 (宍戸宛 広沢書翰) 寺尾連絡ナシ 問合せノ書翰差出シ返答アリ 明朝来訪ノ由ヨツテ飛脚留メ置クベシ 寺尾報知明日委細才話スベシ 付、木梨草按一通
- 9 慶応元年一二月一〇日 (宍戸・木梨宛 松原・広沢書翰) 今暁山口ヨリ飛脚着 御用状御覧アルベシ 諸隊一件河瀬初メ呼寄セノツモリ 当地出張ノ諸兵恐ルルニ足ラズ 二三日後ニハ和戦ノ模様判明セン
- 10 慶応元年一二月一二日 (宍戸・木梨宛 広沢書翰) 演説書如何 早々差越サレタシ
- 11 慶応元年一二月二四日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 木戸貫治・山田宇右衛門・中村誠一・広沢藤右衛門書翰) 広島ニテ評議ノ件広沢帰山当役方へ報告 コノ先共応接ハ名代ニ頼ルベシ 諸兵引取ラバ登坂イタスベシト芸藩へ演説書サシ出セシモ廃削ナドノ沙汰ニヨリテハ決戦止ムヲ得ズ ソノ節ハ朝幕ニ直訴スベキモ結果ハ期待シ得ズ 四境ノ兵不退ニテ登坂命令アラバ御地ヨリ歎願書サシ出シ速ニ帰国アレ コノ含ミニテ応接サレルヨウ 両太夫へモ伝言サレタシ 付、芸藩へ対シ演説書
- 12 慶応元年一二月二七日 (宍戸備後助宛 松原音三書翰) 一四日未明草津出帆 広沢・赤川蔵島参詣 麻郷ニ上陸下松 一泊二〇日徳山着 若殿様御旅館ニ広沢一同伺候報告 二一日帰藩御前ニ於イテ広沢・私ヨリ委細報告
- 13 慶応元年一二月二八日 (宍戸書翰草稿) 四境ノ兵撤不撤ニ関ワリナク対幕接衝ノ決意 (習年正月元日藩政事堂連名宛書翰草稿)
- 14 慶応二年一月一日 (山田・広沢・中村宛 小田村素太郎・赤川又太郎書翰下書) 幕府断案ヲ下スニ到リタル際ノ在芸使節ノ挙止ニ対シ意見
- 15 慶応二年一月八日 (木梨彦右衛門・宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰) 旧臘書翰受取ノ上国向近状承知 幕議難渋ノ模様ナレド硬論制スベク 我ハ諸隊調練満ヲ持ス態勢ナリ
- 16 慶応二 (カ) 年一月一一日 (桂小五郎宛 三好軍太郎・野村靖之助書翰) 行末兵制ノ議謹慎ノ身山口へ出頭ナラズ長府へ推参別紙写歎願書提出セリ
- 17 慶応二年一月二六日 (宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰) 上国向幕府手詰リノ模様 コノ先ノ形勢不明 持久策コソ肝要ナラン 有栖川宮初メ公卿方慎ミハ長州始末ノ後ニ沙汰アル由 君上ノ御赤心貫徹ニ邁進アルノミ
- 18 慶応二年一月二六日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰) 上国向近情芸藩回答承知広島長滞在ニツキ君上御内使大庭派遣 費用送金スベシ 一月モスレバ模様判明セン 閣老京撰間往来幕議ナオ未定 御苦労ナガラ御見合セノコト

- 19 慶応二年二月八日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 松原音三書翰）兵備充実 明倫館ニオイテ在城兵勢五大隊上覧 司令士以上御酒頂戴 萩表一大隊新ニ創立 今ニシテ三大夫七士ガ惜シマル
 - 20 慶応二年二月一一日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 前原彦太郎・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰）佐伯太郎左衛門帰着 御地近況承知 答書差越シ併セテ国貞直人派遣
 - 21 慶応元年十二月九日（宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰）大監察書簡落意承知トノ事申立筋御尤至極ト思ワレ落着 只今歎願肝要 永井其外監察ハ御正義了解 時機ヲ誤タズ賊兵ハ快戦ノ外他事ナシ
- 三、 広島応接関係書翰 Ⅲ
- 1 慶応二年二月一九日（小田村素太郎・赤川又太郎・国貞直人宛 前原彦太郎・山田宇右衛門書翰）薩人土持 国論ハ国貞出張ノ際ニ変更ナシ 山口無人ニツキ国貞至急帰山スベシ
 - 2 慶応二年三月六日（赤川又太郎宛 前原彦太郎・中村誠一・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰）小田村帰国芸州事情聞知 木梨帰国勝手ノ幕達アリ 帰国ニ論決セリ 御支藩様出芸アルマジ 國中沸騰御心配ノ趣 右ハ思過ギニ付心配ノ要ナシ 小田村近ク出芸スベシ
 - 3 慶応二年三月六日（赤川又太郎宛 小田村素太郎書翰）山口帰着政事堂君公へ報告 木梨引払イ現地裁量通り 費用五百両急送スベシ アト五百両帰任ノ際持参スベシ 御支藩出芸ノ件決定ヲ待チ帰芸ノツモリ
 - 4 慶応二年三月一一日（宍戸備後助・杉孫七郎宛 広沢兵助書翰）今夕備後助旅寓ニテ政蔵両局諸君ト会合シタシ 御聴ノ件鎮定ノ見込ミ
 - 5 慶応二年三月二〇日（宍戸備後助宛 杉孫七郎書翰）本日芸人来着仰セノ通り丁寧引受ノ手筈 木梨宅ニ集会快飲セリ
 - 6 慶応二年三月二二日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 中村誠一・野村弥右衛門・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰）芸使寺尾・立野来着用件 演説書控相渡シソノ文言ニ付寺尾意見 長防士民申談書謄写ニツイテ 更衣一件
 - 7 慶応二年三月二二日（宍戸備後助・小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰）寺尾生十郎・立野一郎山口着 松原・小生等ニテ応待 表向キハ支封侯出芸ノ催促 内実ハ出不出ノ決定聞合セ 明後内藤左兵衛出発 ナオ芸藩ニ依頼スル旨応接セリ
 - 8 慶応二年三月二四日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰）芸使寺尾・立野帰国 立野徳山ヨリ宮市迄立戻対話 支封侯出芸コトワリノ名代家老一人ニ出来ザルヤソノ謝絶応答ノコト 君上ニ言上 芸藩ノ周旋感ズベシ
 - 9 慶応二年三月二九日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 中村誠一・藤田与二右衛門・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰）寺尾生十郎二五日帰芸 支封侯出芸ノ件寺尾へ申入レ 立野一郎 芸播斡旋感服 内藤左兵衛 吉川堅物 出芸猶予申入レニツイテ
 - 10 慶応二年三月二九日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門・中村誠一・山田宇右衛門書翰）出芸ノコトワリニ関シ立野・寺尾気附ケ徳山へ勧告ノ模様 大野丹下来話 山田応答始末 大草修吉
 - 11 慶応二年四月二日（小田村素太郎宛 広沢藤右衛門書翰）宍戸等寺町引揚ゲ後ノ芸城探索手段相談
 - 12 慶応二年四月二日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門・中村誠一・山田宇右衛門・木戸貫治書翰）二六日以来幕達ハ不条理 幕令アリ次第早々高森迄引取ラレタシ 名代ノ儀ハアク迄宍戸ニテ済マセタシ 内藤左兵衛
 - 13 慶応二年四月四日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門・中村誠一・山田宇右衛門・木戸貫治書翰）使節引取り幕達アリタル上ハ急ギ高森へ引揚ゲ 小田村帰山ノ上高森へ 出芸一件ハ今後共宍戸一手ニテ依頼 江戸幽囚ノ面々釈放ノ由受取り方早々手配サレタシ
 - 14 慶応二年四月七日（広沢藤右衛門宛 中村誠一・藤田与二右衛門・山田宇右衛門・木戸貫治書翰）第二奇兵隊脱走一件 幕へ届ケ方指令
 - 15 慶応二年四月七日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰）五日芸城引払承知 高森ニテ打合セノツモリ 第二奇兵隊暴発ノ急報 取鎮メノ為メ出張 十日迄ニ高森へ着スベシ
 - 16 慶応二年四月八日（小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰）第二奇兵隊暴発ノタメ大島郡勘場へ本日着 立石孫一郎 隊士百人四艘ニテ昨昼出帆 六日以来説得 大村益次郎 高橋熊太郎 大島宰判農兵ニ小隊ニテ追跡 ソノ吉左右ヲ待チツツアリ コノ件演説書芸城へ届ケラレタシ 演説書文言ニツイテ ソノ結局国許へ報告アレ 明日迄追跡結果ヲ待チ 一〇日晚迄ニ御地着ノツモリ 小笠原仁左衛門
 - 17 慶応二年四月一〇日（宍戸備後助宛 小田村素太郎書翰）御用状着 山宇翁へ廻付 赤

川出芸ノ由ナレバ届書提出モ一安心 広沢帰着小笠原仁左衛門請書持参出立 寺尾来着ニヨリ昨日宮市ニ滞留 明朝出発御地通行ノ折才訪ネスベシ

- 18 慶応二年四月一日 (宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰) 芸使桜井応接 御名代差出ノ件 芸藩斡旋中デモアリ事態遷延ノ手 和戦決スル際ノ御名代尊君ヲ煩ラワスコトニ決定 御尽カヲ願ウ
- 19 慶応二年四月八日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 野村弥右衛門・藤田与次右衛門・中村誠一・山田宇右衛門・木戸貫治書翰) 別紙御沙汰書写ノ通り内意ヲ得置カレタシ
- 20 慶応二年四月八日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 野村弥右衛門・藤田与次右衛門・中村誠一・広沢藤右衛門・山田宇右衛門書翰) 篠田武蔵他三名飛脚要員派遣添書

。四、 広島応接関係書翰 IV

- 1 慶応二年四月九日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 中村誠一・広沢藤右衛門・木戸貫二書翰) 第二奇兵隊脱走ノ徒倉敷ニテ暴動 脱走始末備藩へ呈書 ナオ芸藩ヨリ好キツテハナキヤ
- 2 慶応二年四月二二日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰) 支封侯名代 広島へ到着ノ上ハ如何 意外ノ結果ヲ見開戦ハ必常ナラン 寺尾留守宅焼失ノ由 然ルベク見舞方依頼 倉敷暴徒帰来者誅伐 集議隊首謀者処分及ビ奇兵隊砲卒暴徒始末
- 3 慶応二年四月二三日 (宍戸宛 杉孫七郎書翰) 有栖川内使来着 木戸辞職申出 小沢伊織 岡義右衛門 湯田辺リ三絃太鼓等ノコト 若殿様来月上旬出萩ノ予定 丙寅丸航海手筈
- 4 慶応二年四月二九日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門・山田宇右衛門・木戸貫治書翰) 使節出芸一日延引ノ件ソノ後如何 第二奇兵隊脱走立帰者ニ七人処刑 芸政府へ達書送付 備前へノ達書モ御地ニテ取計ラワレタシ
- 5 慶応二年四月二九日 (小田村・赤川宛 広沢書翰) 田中縫助 太宰府五卿幕吏工作 薩ノ反対ニ挫折ノ模様 第二奇兵隊脱走以後暴挙次イデ起ル気配 断乎厳罰ノ布告 横道外記 大草修吉 室賀播磨守使岩国応接始末 品川弥二郎
- 6 慶応二年五月三日 (宍戸備後助宛 広沢藤右衛門書翰) 裁許申渡一件ハ小田村・赤川へノ通達ニテ承知アリタシ 幕・芸へノ応接接衝ノ件 士民歎願書並ニ添書山口表ニ於イテ起草中 高森引取りノ際貴覽ニ入レン
- 7 慶応二年五月三日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門・兼常剛之助・山田宇右衛門・木戸貫治書翰) 本末両名代呼出シノ幕達ニ対シ当方応答ノ手順 断然拒絶 一応御請ノ両策 後來ノツナギヲ残シ置ク方良カランモ 見込ミニテハ決断シテモ良シ 臨機決セラレタシ
- 8 慶応二年六月二三日 (目賀田喜助・塩谷鼎助他一名宛 小田村素太郎書翰) 宍戸共ドモ閣老へ召出サレ陳述 今明日中芸士伴イ新港へ帰着ノ運ビニツキ港辺御手筈ヲ乞ウ ナオ馬ニ匹拝借イタシタシ
- 9 慶応二年六月 日 (目賀田喜助・塩谷鼎助宛 寺尾生十郎・植田乙次郎書翰) 幕軍大嶋郡砲撃 宍戸君拘留等問責ノタメ出兵アリ ソノ者等乱妨ニ対シ御挨拶了承 閣老手替り従来ノ御国情貫徹イタスベキヤ 御自重ヲ願ウ
- 10 慶応二年七月八日 (宍戸備後助宛 木戸貫治・山田宇右衛門・広沢兵助・中村誠一・前原彦太郎・野村弥右衛門・赤川又太郎書翰) 御願筋却下ノ通知
- 11 慶応二年十一月八日 (宍戸備後助宛 杉孫七郎書翰) 諸隊出張一条一統大尽力 一〇日参謀参集軍議ノ手筈 爰元御潜居ニテヨロシカラン
- 12 慶応二年十二月二七日 (小田村素太郎・赤川又太郎宛 広沢藤右衛門書翰) 永井帰阪 天幕氷解カ 意外ノ沙汰アレバ決戦 木戸貫治薩ト申合セノ為幕吏応接書写携行出発 我方ノ態勢充実ノ近況
- 13 慶応二年 月二九日 (宍戸宛 小田村素太郎書翰) 御起草ノ書面写中 奉勅始末ハ擬対問録ニ載録ノ分ノミ所持 モットモ木梨へ貸出中 本日隊中着後刻参上オ話スベシ
- 14 慶応二年 月 日 (宍戸宛 (カ) 中村誠一・広沢藤右衛門書翰) 追啓 御家老状別紙騰写一通差出
- 15 慶応二年 月六日 (宍戸宛 広沢・松原書翰) 仰越シノ存意ノ通り植・寺兩人二程ヨク弁解イタシ置クベシ
- 16 慶応二年 月五日 (宍戸宛 広沢書翰) 諸隊上書 木梨答書 拝借依頼
- 17 慶応 年 月一二日 (小田村宛 松原・広沢書翰) 認メ掛リ初メタルヤ 寺尾氣ノ毒様子知ラセラレタシ
- 18 慶応 年 月 日 (宍戸備後助宛 楯取素彦書翰) 諸隊今明日ニ華浦集合 既ニ手後レノ上ハ緩々手ヲツケラレルベシ 私等松城ノ心事ニ背カズ 添状、此度ノ行貴筈伺イタシ一通

- 19 慶応 年 月一四日 (宍戸備後助宛 小田村素太郎書翰) 監察達書 執事方覚書 諸隊引取ノ届貸与願イ
- 20 年 月二日 (野村素介ト宍戸三郎往復書翰) [往キ 宍戸] 諸隊根陣へ引揚一条 各隊市中分散ハ規律立テ難キヨリ起レリ 各隊説得ノタメ本陣へ出頭サレタシ [返リ 野村] 私方へモ昨日ヨリ申出ル者アリ コノ件思イツキシコトアリ 委細ハ宮城へ話シ置クツモリ 昨夜来悪寒甚シ現在ノトコロハ静養イタシタシ
- 21 年 月一〇日 (宍戸ト木梨彦右衛門往復書翰) [往キ 宍戸] 御腹痛イカガ 芙蓉詩画才取り寄セクダサレ安心 [返リ 木梨] 昨日頑固連ヲ慰メラレ腹痛モ腹立チトナリシ程 腹痛快癒午後参堂スベシ
- 22 明治元 (カ) 年 月八日 (木戸準一郎・宍戸三郎宛 野村素介・松原音三書翰) 諸隊ノ事少々半途 今日ノ各隊会議ノ趣承知 御懸念ノ筋諸隊ノコトナレバソノ必要ナカラン
- 五、江村純一郎書翰
 - 1 年六月一三日 弥源太ノ気付書供覧
- 六、五代友厚書翰
 - 1 慶応二年一二月二日 (城戸寛治・広沢藤右衛門宛) 今月中旬三田尻ニテ談判イタスベシ 黒田彦右衛門 小松・西郷出京 山宮・中御門・大原卿閉門 一橋・会津更ニ勢ヲ得タランニハ尊藩へ襲来ニモイタルベキカ
- 七、広沢真臣書翰
 - 1 慶応三年一月二七日 小倉藩トノ懇親談判成立ハ喜ブベシ 同藩ノ困窮ハ唐津閣老ノ不所置ニ因ルトコロ 士民歎願書答礼芸使ノ来着迄ニ間ニアワセタシ 認メ方タノム 付、悔ミ状一通
 - 2 明治元年四月一九日 大垣藩小原二兵衛・菱田文蔵書翰ヲ福原清助ニ托シテ届ケル 太政官賜暇帰国イタシタシ
 - 3 明治三年五月二五日 嫡子健三海軍修業ノ希望願筋依頼 (下書)
- 八、井上馨書翰
 - 1 明治四年一二月八日 静斎公一一日御出デ 御家内御一同来宅ヲ乞ウ 藩債一条至急才取り運ビ願ウ
 - 2 明治一〇年一〇月二七日 明日出発 二九日才出デクダサル由同所ニテ待ツ
 - 3 明治一三年六月三〇日 来年度予算減額諸省折合イ困難 大隈發議ノ紙幣主義ヲ正金主義ニナシ五千万円ノ外債案ハ諸参議諸卿反対 叡断ニヨリ節儉仰出ラレ為ニ異論起リ前途會計ノ目途立タズ政府維持策伊藤苦慮 竹添派遣内書ニテ御承知アラン 魯ノ葛藤前二局ヲ結ビタシ 書訓状ニ基キ開談ヲ望ム
 - 4 明治一三年八月三〇日 近時理財ノ困難ニハ伊藤ナド苦心 野ニ国会論隆盛政府前途ノ方向立タズ困却 グラント氏ノ口氣モタシカメタ故顧慮ナク談判進メラレタシ 竹添・井上才役ニ立ツベシ 醇親王徒主戦ト恭親王徒和議トノ勝敗イズレカ 清魯ノ動向 山田ノウワサ
 - 5 明治一八年四月一〇日 招待状
 - 6 明治一九 (カ) 年一二月二日 (内蔵頭 [杉孫七郎] 宛) 宍戸邸招待先約アリ遅参伝達乞ウ
 - 7 明治二〇年一〇月二三日 鳥居坂移転完了御来宅ヲ待ツ 磯部御供ノ件二八日出発イタシタシ
 - 8 明治年一月一六日 明日貴族院ニテ議事日程ヲ変更 小沢男爵免官ノ上奏案議了ノ計略アリ 出席不揃ニ乗ゼラレザルヨウ 早目ニ御出席ヲ乞ウ 議案否決ニ至ラシメタイ
 - 9 明治 年七月一八日 御見舞ヲ謝ス 昨年来高輪別荘一件ニツキ御手数ヲ懸ケ無事落着有難シ
 - 10 明治年三月三一日 御入用ノ英書勝之介取調ノ上御答エ申スベシ 本日閑暇御来駕ヲ待ツ
 - 11 明治 年六月一二日 静斎公へ集会案内多謝出席イタスベシ
 - 12 明治 年月一七日 少々頭痛ニテ内居中来宅ヲ待ツ
 - 13 明治 年八月五日 本日閑居御来駕ヲ待ツ
 - 14 明治 年四月二二日 本日午後才出デヲ待ツ
 - 15 明治 年一二月八日 昨日ハ才風邪ノ由才快気ナレバ御川邸へ才出ヲ待ツ
 - 16 明治 年七月二一日 一昨日ハ失敬 本日午後才出デヲ待ツ
 - 17 明治 年三月二〇日 内話ノ旨アリ本日午後三時頃御来駕ヲ乞ウ
 - 18 明治 年五月一八日 過日概略オ話シセシ事件ニツキ柏翁へ内談ノコト 明晩ゴ都合如何
 - 19 明治 年一月六日 仰越シノ人ノコトオ目ニカカッテオ話シシタイ オ暇ナレバ午後四時頃御来駕ヲ乞ウ

- 20 明治年五月二三日 招待状
- 21 明治年七月二四日 招待状
- 22 明治年四月二〇日 招待状
- 23 明治年十一月七日 招待状
- 24 明治年一〇月五日 招待状
- 25 明治年四月二日 招待状
- 26 明治年七月八日 見舞礼状
- 27 明治年七月二九日 招待謝絶
- 九、井上毅書翰
 - 1 明治一四年一月三日 別紙翻訳英文一閱願イタシ
 - 2 明治一四年三月一七日 三綴書類届ケ状
 - 3 明治一四年 月 日 英公使ノ話ハ我ニ緊要探偵ノ手段考慮サレタシ
- 一〇、伊丹重賢書翰
 - 1 明治五年三月二〇日 省中類焼者へ賞金 ブスケへ三百金礼金 後藤左院議長ト面会 左院ト当省（司法省）ト事務協議ニツイテ
- 一一、楢取素彦書翰
 - 1 慶応年月一三日（宍戸備後助・杉孫七郎宛）昨日ハ失礼 来客アリ不参オ許シ乞ウ
 - 2 年 月一五日 風邪全快ニ至ラズ夕方参上スベシ
 - 3 明治 年六月一四日 当分在国ノツモリ 荷物取纏メノ為メ用人ヲ上京サセン 御地ノ仔細御内報願イタシ
- 一二、兼重讓蔵書翰
 - 1 明治 年六月八日 別紙届方依頼
- 一三、柏村数馬書翰
 - 1 明治三年一二月一三日（広沢兵助宛）家児横浜出港前ノ書翰写真落手 荷物幸便ニ送り下サル由 外人教師傭入レノ件貴論ノ通り取計ヒ殿川一輔出張 福沢諭吉 村田峰二郎
- 一四、加藤弘之書翰
 - 1 明治三年一二月二一日（津田真一即宛）田尻稻次郎留学ノ件
- 一五、木戸孝允書翰
 - 1 明治三年 月 日（宛名・署名ナシ）京都ニテモ浮浪ノ者共久留米・秋田藩邸へ入り込ミオル由 御地モ取締肝要 広沢長屋住居ノ河村健蔵及ビ片野十郎ニ取締助勢依頼アルベシ
 - 2 明治七年三月一日（志々門宛 気門書翰）橋爪云々直々申上クベシ 國中ニ氏昨夜来泊 貴意伝エ申スベシ
- 一六、木梨彦右衛門書翰
 - 1 年 月八日 徳應僧昨日小田村訪問 先夜ノ噂小田村ヨリ同僧へ話セシ由
- 一七、国司正介書翰
 - 1 慶応年八月一三日（宍戸備後助・杉孫七郎宛 国司正介・諏訪湖介・茂岡時介書翰）指月社奉能ニ関シ山口社御衣裳不出ノコト
- 一八、国貞直人（力）書翰
 - 1 明治 年 月三日（広沢兵助宛）近況消息
- 一九、国貞廉平書翰
 - 1 明治七年四月四日 墨翰旋
- 二〇、丸山作楽書翰
 - 1 明治 年五月二三日 保険会社進捗同慶 帝国道德会明後日高島嘉右衛門別宅ニ集会ゴ出席ヲ乞ウ 西村茂樹・加藤弘之・中島錫胤・三好退蔵・安川繁成・渡辺玄包
- 二一、松村小介書翰
 - 1 年 月一六日 別書三本相届ケ公辺へ差出シ分文意適合 平野氏へ托書拜見 書中強硬論ハ不可 ソノ他
 - 2 年三月一〇日（平野清八宛）西下入京 御厄介御礼
 - 3 年 月一三日（平野清八宛）異国船打払ノ件岡部へオ話アリヤ 模様判明ナレバオ伺イタシ
 - 4 年 月一日（平野清八宛）御返報承リタシ 本日仲橋へオ出デアリヤ
- 二二、毛利元昭書翰
 - 1 明治三〇年四月二四日 毛利家歴史編纂所総裁ノ功劳感謝
 - 2 明治 年一〇月二八日（毛利元昭・吉川重吉連署）来旨承知
- 二三、毛利元徳書翰
 - 1 慶応元年一二月 日 激励書

- 2 明治九年二月一〇日 元功身上ニツキ相談イタシタシ
- 3 明治九年一〇月六日 一三日来会承知
- 4 明治一一年八月九日 三郎以下ノ子女養育掛ニツイテ
- 5 明治一六年四月一六日 (山県・井上・山田・宍戸宛) 小早川三郎相続人ノ件
- 6 明治一七年一月九日 案内状
- 7 明治一七年一〇月六日 懇親会招待状
- 8 明治二一年六月六日 元功夫婦八日来宅ノ予定 同日カ翌九日御来駕ヲ乞ウ
- 9 明治二八年一一月一八日 毛利家政及ビ財産上ノ相談方依頼
- 10 明治 年七月二〇日 (宍戸・杉宛) 家事相談人ノ内華族名称ニツキ相談
- 11 明治 年一一月六日 徳山ヨリノ人物詮議ノ件 薩州父子ノ官名通報依頼
- 12 明治 年五月二八日 相談ノ件アリ来駕ヲ乞ウ
- 13 明治 年八月二五日 (杉孫七郎宛) 久保銀行世話役新任ノ件 付、毛利元徳宛井上馨書翰 同件ニ関スル井上意見一通
- 14 明治 年一一月三日 巢鴨別邸へ参上ノ件一二日好都合ナリ 雨天ナレバ延引スベシ
- 15 明治 年四月二七日 徳山世子宛書翰認メタノテ取計イタノム
- 16 明治 年 月 日 額面雛形送付
- 17 明治 年一二月六日 板橋ニテ諸兵操練天覧 三条卿モ供奉ノ由ヨツテ一日来臨ニ決定
- 18 明治 年九月三〇日 禄券制発令ニツイテ 尔後ノ家事取計イノ件
- 19 明治 年 月 日 和歌
- 20 明治 年二月八日 (木戸孝允・宍戸璣宛) 集会日変更通知
- 21 明治 年二月一五日 来訪求ム
- 22 明治 年八月七日 時懐
- 23 明治 年一月一一日 才悔ミ状
- 24 明治 年 月 日 長歌一首
- 二四、 毛利登人書翰
 - 1 元治元 (カ) 年一〇月一五日 昨日君上ノ御内慮伺イ 君意ノ向ハセラルルトコロナレバ片言ノ御採用アルマジ
 - 2 元治元 (カ) 年一〇月二一日 儲君差出シノ文言中激語アレバ壯士輩ハ歓迎センモ少々心配ナレバオ氣ツキ点アレバ進言サルベシ
 - 3 元治元 (カ) 年一〇月二一日 先日来ノ御苦心了察 儲君ノ意向ニヨルコトナレバ致方ナシ 上国向変リタルコトナシ 長州同意ノ諸藩オ暇ヲ賜リタル由 大争乱ノ端ナルベシ
 - 4 年 五月二一日 (虫食イ文意不明)
- 二五、 村上兼之助書翰
 - 1 年六月二七日 近親消息
- 二六、 村田峰次郎書翰
 - 1 明治二四年五月一一日 (兼重慎一他三名宛) 忠正公神道碑文ニ関シテ
- 二七、 長野右一郎書翰
 - 1 年一二月一〇日 私へ面会ゴ希望ノ由 其筋へ伺イノ上 明昼頃迄ニ都合オ知ラセ申スベシ
 - 2 年一二月一一日 藩法ニテ辱知ヨリノ添状ナクテハ面会不能ノ定法 半七先生ノ御子息ナリヤ 其筋へ達スベシ
- 二八、 小川善右衛門書翰
 - 1 明治年一二月一九日 (広沢兵助宛) 木戸氏滞阪ノ折御地模様伝承 御下阪相成リ難キ由ニツキ柏村書翰廻付受取ラレタシ
- 二九、 三条実美書翰
 - 1 明治四年一月一九日 広沢暗殺犯人探索督促
 - 2 明治六年九月一八日 皇子逝去 埋葬地取調ノコト
 - 3 明治一七年一月一四日 (熾仁親王・三条実美連署) 新年祝賀会案内
 - 4 明治一八年五月一〇日 一四日御来駕ヲ乞ウ
- 三〇、 佐藤信寛 (寛作) 書翰
 - 1 明治三年一一月二九日 着県マデノ日程 前知事真木直人ナオ在任 一昨年ノ隠岐騒擾始末急ギ裁決ヲ希望
- 三一、 沢宣嘉書翰
 - 1 明治四年三月二六日 急抛公使館へ出張アレ
- 三二、 島村久書翰
 - 1 明治 年五月二〇日 夫人着津北上ノ通知土産御礼
- 三三、 清水清太郎 (カ) 書翰

- 1 年 月 一 日 途中御自愛 拝借ノ易便蒙行返却見合セノコト
- 三四、 品川忠道書翰
 - 1 明治一四年七月一九日 水野良知帰滬 当館係員据付一条御尽力ニヨリ実現一同感謝 私賜暇帰朝ニツイテハ雇洋人ノ件モアリ次便乗船ノツモリ
 - 2 明治年一二月一三日 病氣見舞
- 三五、 穴戸璣書翰
 - 1 嘉永五年七月五日 (両親宛) 在府近況報告
 - 2 慶応二年四月四日 御用済帰国届 (断簡)
 - 3 明治三 (力) 年一月四日 (廉盟契宛) 中券一件探索 宿ニ藤村六郎・曾弥来蔵止宿 振武隊長意見デハ中村ト藤村ノ混同ナラン 藤村ハ振武除隊後健武入隊ニツキ右ノ間違ナルベシ
 - 4 明治四年一月五日 (広沢真臣宛) 二見正則建言書送付 付、二見正則建言書并書翰 二通
 - 5 明治一五年八月三十一日 (水野良知宛) 転勤ニ際シ手当支給ニツキ伺イ
 - 6 年一〇月二日 (杉孫七郎宛 穴戸備後助・相原治人書翰) 御用出殿願ウ
 - 7 明治 年 月 一 六 日 (三泉宛 穴戸三郎・松原音三・野村素介書翰) 中谷托書拜見 干城隊ノコト諫早等出山ノ由御懸念ナキヨウ 中谷政府へ申立多事ノ折困却 ソノタメノ山県帰萩御懸念晴ラサレタシ
 - 8 明治 年 月 八 日 (広沢真臣宛) 熊本藩村岡肇来訪 病氣ニツキ面会謝絶 広沢参議へ申出ルベク伝工置ケリ 右ノ仁来訪セリヤ
 - 9 明治 年 一 二 月 一 一 日 (穴戸璣ト木戸孝允往復書翰) [往キ 穴戸] 本日ノハツ山集会 欠席 [返リ 木戸] 自分モ欠席
 - 10 明治年一 一 月 二 〇 日 (杉宮内大輔宛) 出席通知
 - 11 明治年七月九日 (杉内蔵頭宛) 別封送付
- 三六、 杉孫七郎書翰
 - 1 明治一三年一月九日 昨年山陰山陽巡廻 士族困窮不平多シ 農民ハ豊作国会論盛ン岡山・高知・福岡特ニ盛ン 中野・藤田一条解決 岸田吟香 福原恭輔仔会社瓦解 ソノ他
 - 2 明治一三年六月二日 朱肉受取 有栖川宮モ所望 地所坪三四円ニ騰貴 別荘芝ニ入手 主上御巡幸ノコト 琉球一件泣寝入りカ 当節物価騰貴農民富ミ町人小前ノ者困窮 殊ニ士族ノ将来懸念多シ 木戸正二郎 翠香夫人 新刻賀知章草書ノコト 岸田吟香 黄遵憲ノ日本雜事詩 日本史
 - 3 明治一三年一二月一七日 魯支一条如何ナルベキ 魯水師提督 山田・野村・高輪邸 奥平死去 邸宅買入ノ件 近頃茶ノ湯流行 ソノ他京地模様
 - 4 明治一六年三月四日 ワシントンニテ寺島公使ヨリ伝聞事項 琉球事件ニ関シ清国情報 グラント氏 米韓条約批准 日清争端ハ朝鮮ニ非ズシテ琉球ニアルベシ
 - 5 明治一六年五月三〇日 凶面至急調製差廻シ乞ウ 賢所・神嘉殿繩張御下命アリタシ
 - 6 年 月 日 福原内蔵之允同伴ノ件
 - 7 明治 年九月一四日 (杉孫七郎・柏村数馬連署) 三条公ヨリ知事様へ来翰 尊君東上要望二〇日飛脚船ニテ出発サレタシ
 - 8 明治 年五月二〇日 造営ノ儀言上御決裁ヲ仰ク日取り 実地見分ノコト及ビ造営地選定ニツイテ
 - 9 明治 年二月一四日 賢所造営ハ式部寮建議アリ見合セタシ
 - 10 明治 年八月一五日 松方大蔵卿伝言書回付 付、杉宮内大輔宛徳大寺実則書翰 一通 (八月一四日付) 松方伝言造営費決議ノ旨
 - 11 明治 年一〇月三日 造営費ノ件相談内閣迄出頭サレタシ 松方蔵相伝言
 - 12 明治 年一月一六日 造営絵図画天覧 二一、二日頃臨幸ノ予定
 - 13 明治 年一月一六日 橘献上ノ件承知
 - 14 明治 年三月一三日 所用ニテ高輪邸不参 例ノ一条猶予乞ウ
 - 15 明治 年八月一五日 矢島初会ノ模様 同僚麻疹ノ為メ帰京延期
- 三七、 周布公平書翰
 - 1 明治 年四月一六日 亡夫碑文案二対シ検閲依頼 付、贈正四位故長州参政周布君碑 蒔藟版一枚
- 三八、 竹中織部書翰
 - 1 慶応四年五月二八日 馳走兵賦五郎兵衛ナオ熟覽イタシタキ由 三等論遠貞ノ意見ニテハ馳走兵賦ノ令実施ノ後然ルベシ 三木・伊湊ノコト ソノ固辞ノ理由 借銀役料心付銀ノ支出増対策工夫アリタシ 蔵局ノコト越後戦況徳山出兵トナレバ困窮ナリ
- 三九、 竹添進一郎書翰

- 1 明治一三年一二月二日 横字新聞二田辺・井上両書記官上海発赴津ノ報道アリ 太沽二間合セノ結果今朝太沽発ノ由今夕到着スベシ
- 四〇、 田辺太一書翰
 - 1 明治一三年一二月二日 井上氏同道天津着報告
- 四一、 山田顕義書翰
 - 1 明治一三年一月七日 年頭ノ挨拶 近況消息
 - 2 明治一三年八月八日 清魯一条御心配ノコトナルベシ 蚕・麦作ハ上作 農ハ近頃有福人力車引ト窮士族等ガ困苦民権家輩ガ国会開設ナド唱エ 人心惑乱セシメ憤慨ニ絶エズ
 - 3 年 月二七日 (宍戸備後助・杉孫七郎宛) 出途激励
 - 4 明治 年一〇月二三日 出席通知
- 四二、 山県有朋書翰
 - 1 明治一二年七月二日 (代筆) 琉球廢藩置県ニ対シ清国ヨリ照会書来ル 清国ノ抗議ハ取ルニ足ラズ 回答書御覽済ナラン 李鴻章外国ニ仲裁依頼スベキカ 桂中佐内密ニ視察派遣スベシ
 - 2 明治一三年二月二〇日 (代筆) 参謀本部派遣支那語学生ノオ世話感謝 右取締人ノ日派遣スベシ
- 四三、 安田長五郎書翰
 - 1 年一月一五日 年賀 近況消息
- 四四、 横田勝三郎書翰
 - 1 年五月一三日 近況報知 付、横田おば書翰
 - 2 年八月九日 近況報知 付、横田おば書翰
- 四五、 吉田吉五郎書翰
 - 1 明治元年一〇月 日 竹中添手紙報知書到来 政府連中ヘモ一見 兵賦出米 御馳走米一件 難渋 大阪状着殿様・淡公着阪御上京 京大阪豆板銀通用差留金札ノ沙汰 御親兵一件
 - 2 明治元年一二月一日 利下ケ米和商建一件治リ難シ 竹中一昨夕出徳 有福太郎始メ出勤セズ 伊藤湊脱走行方不明 安左衛門手紙ニヨレバ兵隊ハ関東出張トノコトナレド京都ニテノ御沙汰ハ旧幕脱走ノ徒松前へ遁出ニツキ奥州へ出張ノコト ソノ他
 - 3 明治 年五月一日 (宍戸備後助・竹中織部宛) 有福太郎帰徳ノ理由 淡公御上京ニ関シ物入りノ引当テ相談 蔵元金子払底金繰リ困難 山名五兵衛
 - 4 明治 年五月二八日 出立前仰付ノ詮議修補銀局へ申付 愚案ニテ為造モ賛成貴覧ニ入レタシ 教学坊御馳走米ノコト ソノ他
 - 5 明治 年五月二九日 御出立前御申付ノ取調物昨日送付 竹中今曉帰省ソノ後御用状着継送リヲ以テ廻送 政府ヨリ別紙示談アリ御滞徳中政府ヨリ示談アリシヤ 人数増ニヨリ二一四両トナリ御仕組方文句ナシ
 - 6 明治 年六月四日 日夜才出テヲ待チイルトコロ 御帰萩ノ由イカナル理由ニヤ 早々御出徳願ウ
- 四六、 渡辺源五書翰
 - 1 嘉永五年八月一一日 家内消息
 - 2 年一二月七日 家事向私信
- 四七、 不明
 - 1 年 月 日 書類返シ添状
 - 2 明治一六年九月八日 (宍戸宛 民治書翰) 志都岐山神社社務所建築ノ件 付、寄付依頼状
 - 3 年一〇月二八日 (宍戸宛 操処書翰) 就職斡旋依頼
 - 4 明治四年五月三〇日 (宍戸三郎宛 湛太郎書翰) 老公 (敬親) 遺物御羽織及ビ海屋詩画送付
 - 5 年 月五日 (偲々堂宛 南邨書翰) 今夕来駕依頼
 - 6 年 月一日 (吉翁宛 南邨書翰) 東方御書面拜見大事件ニツキ当地ヘノ影響御配慮願ウ 引続キ発令為サルベク宍戸君ノ来徳ヲ待ツ竹君一人ニテハ紛糾ノ懸念アリ
 - 7 年 月一三日 (山県宛某) 増上寺門前柳川へ参集乞ウ
 - 8 慶応四年閏四月二日 (宍戸宛 雅二郎書翰) 上京希望斡旋ノ依頼
 - 9 閏月不明日 (虫食) (敬宇先生宛 不明) 世子君御帰山仰出ラレズ 相原一一日帰山ノ筈
 - 10 年四月一九日 (太八書翰) 時計直シノ件
 - 11 年五月二日 (島田宛 顕) 婚儀打合セ
 - 12 年十一月九日 (宍戸璣宛 吳啓太書翰) 来訪予定通知
 - 13 年四月二八日 (山県宛 福原書翰) 成四郎の儀につき

書類の部

• 書類の部

◦ 四八、 維新関係

- 1 相州浦賀奉行ヨリ注進ノ写 異国船応接 弘化三年閏五月二八日 一通
- 2 書付写 皇国ノ御為メ松平大膳大夫父子ノ内一人出府周旋アルベキ依頼 一通
- 3 御内命写 定広へ滞京周旋ノ内命 文久二年五月一日 一通
- 4 御直達書写 攘夷策建白 文久二年五月二日 一通
- 5 御内勅写 御下賜品達 文久二年五月七日 一通
- 6 勅諭並御内命之写 勅使下向三ヶ条ノコト 文久二年五月一三日 一通
- 7 上意并御書附之写 国事尽力アルベキコト 將軍取急ギ上洛アルベキコト 文久二年六月一日 一通
- 8 諸士中へ被仰渡候御書附写 幕府へ建白御採用將軍上洛 文久二年六月五日 一通
- 9 攘夷勅旨写 勅旨並二御沙汰 文久二年 一通
- 10 学習所ニテ中山ヨリ殿様へ直渡シノ御書附
 - イ、 勅使関東へ差遣スニ付周旋アルベシ
 - ロ、 長門守へ父同様周旋アルベシ
 - ハ、 長井雅楽謗詞事件掛念ナカルベシ 文久二年七月一六日 三通
- 11 勅書并御沙汰書写 対馬藩へ攘夷勅書 沙汰書 文久三年一月 一通
- 12 御内勅写長州へ
 - イ、 攘夷下勅 対馬藩ノ国政士気留意スベシ
 - ロ、 対馬守辺ノ要地周旋イタスベシ 文久三年 二通
- 13 宸翰写等送付添状 薩船砲撃ノ件 (文久三年一二月二四日) 一綴
- 14 手控 豊浦沖漂着船ノ取扱イニツイテ 慶応二年 一通
- 15 薩・米〔久留米〕両藩交渉伝聞 一枚

◦ 四九、 第二次征長関係 I

- 1 毛利左京自判書写 三家老処分ニ関シ自判歎願 元治元年一二月一日 一通
- 2 糺問使派遣ノ幕令 松平安芸守へ長州糺問ノタメ幕監派遣ノ達 慶応元年一〇月二七日 一通
- 3 宍戸備後助・宍戸備前へ藩命 慶応元年一〇月 一通
- 4 赤川又太郎出張命令 慶応元年一〇月 一通
- 5 内々演説 在芸使節ヨリ芸藩へ提出セル演説書案 慶応二年一月二日 一通
- 6 小笠原壱岐守芸州派遣ノ幕府達写 毛利大膳父子伏罪ノ疑惑ニ関シ裁許申渡シ 慶応二年二月 一通
- 7 広島応接日録 小笠原閣老着芸後ノ広島応接重要事項日記〔楫取素彦筆〕 慶応二年 一通
- 8 幕命写 三支侯・吉川堅物・家老等広島表へ出頭及ビ宍戸備後助滞芸幕命 慶応二年二月 同文二通
- 9 演説手控 木梨進退照会 付、木梨帰藩勝手 (三月) 慶応二年二月二七日 二通
- 10 内演説手控 三支侯等出芸ノ幕命ニ対スル芸藩へ提出ノ演説書 慶応二年二月二八日 一通
- 11 請書 広島表出頭ノ幕命ニ対シ 慶応二年三月 一通
- 12 届出書 毛利讃岐 病氣ニ付広島表へ不参届 慶応二年三月 一通
- 13 広島表不参届 毛利左京 慶応二年三月 草案共三通
- 14 広島表不参届 毛利淡路 慶応二年三月 一通
- 15 陳情書 毛利左京 慶応二年三月 一通
- 16 演説書 広島表不参ニ関シ陳情書 慶応二年三月 二通
- 17 演説書 毛利讃岐 慶応二年三月 一通
- 18 内演説ニ対スル幕命 小笠原閣老ヨリ強而出頭スベキ旨芸藩經由ノ命令 慶応二年三月 一通
- 19 応接問答覚書 戸田肥後守家来横尾貞之助・岡田宗平・赤松六郎対小田村素太郎応接 慶応二年三月二七日 一通
- 20 応接覚書 慶応二年三月 一通

◦ 五〇、 第二次征長関係 II

- 1 幕命写 三支侯・吉川堅物・家老等へ再度広島表出頭ノ幕命 慶応二年四月 一通
- 2 広島表出頭請書 毛利左京 慶応二年四月 一通

- 3 内々演説 広島出頭日延べノ願書 慶応二年四月二日 草案共二通
- 4 内々演説 四月二日幕達ニ付芸迄差出シノ演説書 慶応二年四月二日 草案共二通
- 5 談話筆記 寺尾話頭 慶応二年四月三日 一通
- 6 談話筆記 寺尾話頭 慶応二年四月五日 一通
- 7 国泰寺出頭請書 毛利四家名代 慶応二年四月二九日 一通
- 8 届出書 毛利大膳家老中 第二奇兵隊脱走事件 慶応二年四月 一通
- 9 毛利大膳・毛利長門・毛利興丸へ達写 幕府処罰ノ達 慶応二年五月 一通
- 10 毛利興丸へ家督ノ達写 慶応二年五月 一通
- 11 興丸家督ニ際シ幕府達 三支侯・吉川堅物・興丸家老宛 慶応二年五月 一通
- 12 興丸家督ニ際シ宍戸備前へ幕府達 慶応二年五月 一通
- 13 毛利淡路へ幕府達写 大膳父子御咎興丸家督ニアタリ宗家扶翼スベキノ達 慶応二年五月 一通
- 14 毛利淡路へ幕府達写 江戸屋敷追テ沙汰アルベシ 慶応二年五月 一通
- 15 毛利興丸へ幕令写 別紙高杉晋作桂小五郎等広島表へ差出スベシ 慶応二年五月 一通
- 16 広島ニ於ケル幽囚室概略図 慶応二年五月 一枚
- 17 小田村素太郎所持品目 一通
- 18 覚 宍戸・小田村身廻品目 慶応二年六月二五日 一通
- 19 覚 御軍事方 長防人民ニ対スル幕軍触書 慶応二年六月 木版 一枚
- 20 長防士民上表写 長州再征ニ対スル上表 一通
- 21 浜田侯へ達スル書 長防士民中 慶応二年六月 一通
- 22 大島口戦況見取図 慶応二年六月 一枚
- 23 浜田侯宛声明書 石州出張長防士民中 浜田藩止戦申入レニ対スル声明 慶応二年七月 一通
- 24 因州・備前両侯宛依頼書 石州出張長防士民中 浜田藩止戦ニ関シ周旋申入レ 慶応二年七月 一通
- 25 石州口報道 杉山七郎（杉孫七郎）・水竜助（滝弥太郎）浜田藩久松・岡尻応接ノコト 慶応二年七月 一枚
- 26 上国向動静覚書 慶応二年九月 一通
- 27 意見書 小田村素太郎 侍夷目安 小倉処分 諸隊解体 慶応二年一二月二一日 一通
- 五一、長州藩関係
 - 1 毛利家歴 一綴
 - 2 覚 公辺ヨリ預リ品目録 慶応年六月二五日 同文三通
 - 3 覚 半紙調達 八月 一通
 - 4 土風刷新ノ意見書 一綴
 - 5 御馳走・兵賦段分ケ 二通
 - 6 意見書ヲ徴スルノ告示 慶応四年五月九日 同文二通
 - 7 覚 粟屋内匠他四名兵備費用ノタメ禄返上ノ願 五月一〇日 一通
 - 8 覚 徳山藩役人名簿 一通
 - 9 家中総出仕達示次第〔徳山〕 一通
 - 10 藩内訓示〔毛利支藩ノ内〕 明治元（力）年 一通
- 五二、明治新政関係
 - 1 建議書 京都府ニ於テ評議ヲ乞ウ書 明治元（力）年 一通
 - 2 百官将士ニ対スル勅書 明治二年一月四日 一通
 - 3 上書下書 恩賞拝辞 一枚
 - 4 規則 新政民治指針 一通
 - 5 位階表 一通
 - 6 参議へノ叡旨並ニ各参議担当割 一通
 - 7 全国高一覧 一通
 - 8 覚 京軒別割明細 一通
 - 9 収支決算高 明治元年 一綴
 - 10 諸費入用見込 明治二年 一通
 - 11 各省庁歳費 明治三（力）年 一通
 - 12 財政意見〔広沢真臣筆〕 一通
 - 13 建白書〔広沢真臣筆〕 財政逼迫ニアタリ要用金献上 人民告諭ノコト 一通
 - 14 会議々題五条 一通
 - 15 陸軍編制 軍務局 兵員 軍費高割 慶応四年閏四月 一通
 - 16 陸海軍費額 一通

- 17 太夫士改正詮議大意〔広沢真臣筆〕 一通
- 18 取締規則案〔広沢真臣筆〕 一通
- 19 海外旅券規則 明治一一年二月二〇日 一綴
- 20 弁官宛 広沢真臣進退伺 鶴田藩復祿御沙汰書石高相違ノ件 一〇月五日 一通
- 21 金札弘通意見〔広沢真臣筆〕 一通
- 22 建言書控〔広沢真臣筆〕 明治二年一月 一通
- 23 職制変革反对意見書 広沢真臣 明治二年六月二七日 一通
- 24 広沢真臣意見書草稿 金札発行意見 一通
- 五三、 地方制度関係
 - 1 諸見附御門預リ各区取締所及東京府監察方等可心得箇条草按〔広沢真臣筆〕 一通
 - 2 意見書 府県政体 金札 商法司ニツイテ 明治元（力）年 一通
 - 3 郡県制意見書 明治二（力）年 一通
 - 4 新県仮規則〔草案〕 民部官〔広沢真臣筆〕 一通
 - 5 県職制 規則〔広沢真臣朱筆書入〕 一通
 - 6 民部官規則〔草案〕〔広沢真臣筆〕 同文二通
 - 7 民部官職制 明治二年四月 一通
 - 8 地方取締心得 一通
 - 9 蝦夷開拓願 伊達藤五郎・石川大和・片倉小拾郎 一通
 - 10 大納言公宛 広沢兵助建議 蝦夷地開拓移住仙台内願ノ件 明治二年七月一二日 一通
- 五四、 宗教関係
 - 1 長崎ヨリ往復手續キ 長崎耶蘇教徒処置ノ件 明治二年 一通
 - 2 越中富山藩申渡 各宗派合寺ノ件 明治三年閏一〇月二七日 一通
 - 3 覚宝寺・妙誓寺宛 六条改正掛書翰 富山藩内寺院合併問題 ソノ他 明治三年一二月一三日 一綴
 - 4 書翰抜写 合寺 廃仏棄釈関係 明治三年一〇月 一通
- 五五、 公使時代 I
 - 1 各国改約大意 同文二綴
 - 2 各国修約大意節略 一綴
 - 3 日本及大不列顛両国間通商及航海条約草案 一綴
 - 4 解任通知状 清国ニ対シ森有礼特命全権公使解任通知 明治一二年三月二二日 漢文写共二綴
 - 5 委任状 漢文写 宍戸璣 特命全権公使 明治一二年三月二二日 一枚
 - 6 特命全権公使宍戸璣旅券 明治一二年三月二四日 一枚
 - 7 外務卿移北京駐劄公使訓条 明治一二年七月一六日 一冊
 - 8 日本領事官訓令及ビ附録 一綴
 - 9 支那条約改正照会 清国總理衙門ノ条約改定ニ関スル弁明 同文二綴
 - 10 Note and Entry of Protest of the Japanese ship ペン書 一綴
 - 11 各稿底 増加条約案 同漢文 日本対清国照会（明治一三年三月九日）竹添進一郎李鴻章ト談話意見書 一綴
 - 12 外務卿井上馨宛 田辺太一報告 北京公使館事務報告 明治年一二月九日 一綴
 - 13 在清国公使館公信書翰〔田辺太一〕 清国ノ動向 琉球案件我が方ノ対策具申 一綴
 - 14 宍戸駐清公使公信控 井上外務卿竹添領事宛 日清交渉ノ経緯 事務連絡 明治一三年四一七月 一綴
 - 15 北京公使館公信控 在露西德二郎書記官帰朝途次ノ行方探索ニツイテ 一枚
 - 16 特命全権公使宍戸璣宛 外務卿井上馨内訓条 増加条約商議ニ入ルベキコト 明治一三年六月二九日 一綴
 - 17 宍戸公使帰朝日記 御用掛中田敬義録 明治一四年一一二月 一綴
 - 18 旅行取止メ返納金額 明治一四年 一綴
 - 19 会計記録 三枚
 - 20 北京公使館備付書籍目録 明治一一年五月調 一綴
 - 21 西苑北海所見略記 穎川高清・中田敬義 明治一三年六月九日 一綴
- 五六、 公使時代 琉球問題 II
 - 1 照会 琉球一件 日清交換公文写 明治一一年一二年 一綴
 - 2 琉球一件交渉対話記録 外務卿寺島宗則ト清国公使何如璋及ビ英国公使・仏国公使トノ対話記録 明治一一年一二年 一綴
 - 3 第二回奉使琉球復命書 第二回奉使琉球始末 松田道之 明治一二年二月一四日 一綴
 - 4 琉球藩処分方法 明治一二年三月一日 一綴

- 5 総理衙門照会 明治一二年五月一〇日 活版 一冊
- 6 支那政府ノ抗論ニ対シテ我ガ日本ニ琉球島ヲ專領スベキ主権アル覚書 明治一二年七月 活版 一冊
- 7 ユー・エス・グラント書翰訳文 琉球問題調停ニ関シ在東京グラント將軍ヨリ清国政府ヘ送ラレタ書翰 一八七九年八月一三日 一綴
- 8 訳美前首領来信 在東京グラント將軍ヨリ清国政府ヘ送ラレタ書翰 一通
- 9 全権公使宍戸璣宛 外務卿井上馨内訓条 琉球一件及ビ増加条約ノコト 明治一三年三月九日 一綴
- 10 宍戸公使ヘ訓条 外務卿井上馨 琉球一件清国トノ商議ニ并理ノ全権ヲ委任ス 明治一三年三月九日 一綴
- 11 日清会商交換照会控 琉球問題会商ニアタツテ彼我交換セル照会ノ控 明治一二一一三年 一綴
- 12 日清会商照会草案 明治一三年 一綴
- 13 宍戸全権公使琉案復命書稿一、二 二冊
- 14 節略ニ草稿 琉球一件及ビ増加条約 日清交渉節略 二綴
- 15 日清会商交換公文控断片 六枚
- 16 日本政府对清国照会草案 琉球問題日清会商ニ関スル件 一綴
- 17 覚書 慶長一八年以降江戸時代琉球交渉ノ覚 二綴
- 18 特命全権公使宍戸璣宛 外務卿井上馨談判手續内訓状 琉球一件第二内訓 明治一三年四月 一綴
- 19 琉球一件処理方針 閣裁ヲ経テ第二内訓ニ示サレタル方針 明治一三年四月一十九日 一枚
- 20 外務卿井上馨ト米国公使ビンガム往復書翰写 琉球問題ニ関シ米清交渉ニツイテノ照会応答 明治一三年四月一九、二〇日 一綴
- 21 外務卿与清使晤談記略 明治一三年六月二八日 同文二綴
- 22 特命全権公使宍戸璣宛 外務卿井上馨訓条 琉球一件并理ノ全権ヲ委任ス 明治一三年六月二十九日 漢文共二枚
- 23 委任状 宍戸璣 琉球事件及ビ日清現行条約増加条款ノ全権 明治一三年六月二十九日 一綴
- 24 特命全権公使宍戸璣宛 外務卿井上馨訓令 琉球一件并増加条約ノ清国側調印延期ニ対シテ 明治一三年一一月三〇日 一綴
- 25 日清商議節略 琉球一件 付、増加条約底稿 明治一三年八月一八日一明治一四年一月一日 一綴
- 26 并理球案始末 宍戸璣 明治一四年 五冊
- 五七、 広沢真臣関係
 - 1 滞京中御沙汰書其外覚 広沢兵助 慶応三一四年 一通
 - 2 御即位献上目録 広沢兵助 慶応四年八月二七日 一綴
 - 3 弁事宛 広沢真臣書翰 猶予願 明治元年一一月一四日 一通
 - 4 辞職願草案 広沢兵助 慶応四年閏四月二五日 一通
 - 5 広沢真臣参与辞職願 (草稿) 一通
 - 6 賞典秩禄返還願 広沢真臣 明治元年 一通
 - 7 弁事宛 広沢真臣 着京届 明治二年一月一日 一枚
 - 8 弁官宛 広沢真臣書翰 永世秩禄御礼 明治二年一〇月三日 一通
 - 9 長沼申出 広沢関係ノ人名 一枚
 - (イ) 駐清公使時代書類入袋 一枚
 - (ロ) 駐清時代書類入袋 一枚
 - (ハ) 駐清時代書類入袋 一枚
- 五八、 雑
 - 1 西遊雑稿草 滞崎日誌 安政二一三年 一綴
 - 2 和歌 一枚
 - 3 和歌草稿 六枚
 - 4 詩 明治二〇年四月一五日 一枚
 - 5 春興 [詩] 一枚
 - 6 砂張水翻拝領状 宍戸三郎 明治五年五月 一通
 - 7 宍戸璣家事向雑記 明治一三年 一綴
 - 8 宍戸璣経歴談「防長史談会雑誌」二七号 明治四五年二月七日発行所載 電子複写版七枚
 - 9 願書 井川太三 慶応三年一月 一通

- 10 覚 鑄物師尾本七兵衛御取立テ願 慶応三年四月 一通
- 11 覚 御六尺長七へ褒美状 一通
- 12 願書 山名五郎兵衛・粟屋采雄 一通
- 13 願書 境常次郎 一通
- 14 明治三年 月割 一枚
- 15 円竜寺間取函 一枚
- 16 志都岐神社境内写真 三枚
- 17 木戸公伝記編纂所 宍戸功男宛史料借用依頼 大正七年三月一二日 活版 二枚
- 18 さよ一件墨附 安政四年 一枚
- 19 断簡ソノ他 一袋
- 五九、家系関係
 - イ 山県少介 号 周南
 - 1 山県少介宛 宍道外記書翰 勢代姫誕生 寛延四年五月一九日 一通
 - 2 山県少介宛 宍道外記書翰 勢代姫命名 寛延四年六月一二日 一通
 - 3 山県少介宛 宍道外記書翰 殿様重ノ字ヲ拝領 従四位下侍従叙任 寛延四年六月二五日 一通
 - 4 山県少介宛 宍道外記書翰 毛利重就家督相続ノ報知 宝暦元年四月二三日 一通
 - 5 山県少介宛 宍道外記書翰 殿様家督才礼言上ノ為メ御登城 毛利文之助長府毛利家相続 宝暦元年五月一七日 一通
 - 6 山県少介宛 横勘三郎書翰 今晚ノ講義明夕七ツ時延期ノ達 九月一日 一通
 - 7 山県少介宛 桂左近・宍道外記書翰 山県二郎右衛門ト松村文四郎娘トノ縁組許可 一二月一日 一通
 - 8 山県少介宛 宍道外記・乃美仁左衛門書翰 山県幸之進 桂四郎左衛門養子許可ノ達 一二月二一日 一通
 - 口 山県二郎右衛門 号 棠園 周南長子
 - 1 山県二郎右衛門宛 児玉三郎右衛門・梨羽頼母書翰 大組任命ノ達 一二月二一日 一通
 - ハ 山県少内
 - 1 山県少内娘縁組許可状 天明七年一〇月二五日 一枚
 - 2 渡辺太郎左衛門宛 佐世仁蔵他五名書翰 山県少内弟伊兵衛 馬屋原作右衛門養子許可 寛政三年二月二二日 一通
 - 3 山県少内宛 山吉十郎書翰 明倫館積菜任命 寛政四年八月七日 一通
 - 4 山県少内宛 御当職所書翰 藍島沖怪船出現赤間関ヨリ注進 同地出張ノ内意達 寛政五年一二月一三日 一通
 - 5 山県少内宛 国司市正・益田清之助書翰 御用出頭ノ達 一月二八日 一通
 - 6 山県少内 御手廻組側儒拜命 一通
 - ニ 山県少次郎
 - 1 山県庄二郎宛 佐世仁蔵書翰 積菜典儀任命ノ達 天明元年二月七日 一通
 - 2 平川左右宛 山県少次郎書翰 屋敷修理届 一二月一二日 一通
 - 3 山県庄次郎宛 西村吉左衛門書翰 小田村十吉病氣ニツキ積菜代行ノ達 二月七日 一通
 - ホ 山県半七 号 太華
 - 1 山県半七 褒状 天保一三年四月 一通
 - 2 山県半七他二〇名宛 清水清太郎・繁沢石見書翰 騾尉様無事江戸着ノ達 安政元年三月六日 一通
 - 3 山県半七他一六名宛 佐世仁蔵・内佐渡書翰 主公江戸発駕ノ達 安政元年五月二八日 一通
 - 4 山県半七他一九名宛 繁沢石見書翰 殿様東上途中障リナキ由通知 九月二五日 一通
 - 5 山県半七 覚 亥年一二月 一通
 - 6 山県半七 講釈会裁許ノ達 一通
 - 7 山県半七 御召下御上下 拝領状 一通
 - 8 山県半七 洞春公（元就）年廻二際シ追慕詩歌提出方法達 六月 一通
 - 9 山県半七 遷座式典献官拜命 一通
 - 10 山県半七 遷座告文代作拜命 一通
 - 11 山県半七 遷座式典規模 一通
 - 12 山県半七 綿三抱 拝領状 一通

- 13 山県半七宛 毛利元世書翰 年賀御礼 三月一日 一通
- 14 山県半七宛 粟屋禎蔵書翰 忌中御免ノ達 五月二九日 一通
- 15 山県半七宛 浦木工・井原大学・福原刑馬書翰 明倫館講番ヲ命ズ 九月二七日 一通
- 16 山県半七宛 国司太郎左衛門書翰 御稽古ニツキ例刻出勤ノ達 九月二九日 一通
- 17 山県半七宛 佐徴之助・高勝五郎書翰 山県俊蔵江戸出張ノ達 四月七日 一通
- 18 山県半七 隠居間届 一通
- 19 山県半七 覚 病氣手重悴半蔵国許差下シノ達 九月 一通
- 20 山県半七宛 不詳 消息 一月一五日 一通
- 21 山県半七宛 茂書翰 家信 一月一五日 一通
- 22 福田宛 静観堂書翰 静観堂号頂戴ノ所縁云々 一通
- へ 山県竹太郎
 - 1 山県竹太郎宛 広沢書翰 備後助ヨリ依托ノ別封届状 四月二二日 一通
- 卜 山県半蔵
 - 1 山県半蔵宛 繁沢石見・志道安房書翰 熊谷吉十郎組所属達 八月二八日 一通
 - 2 山県半蔵宛 福原相模書翰 御内用上阪スベキノ達 八月二八日 一通